

## 奄美大島・ 鹿児島旅行



札幌市医師会  
百石内科循環器クリニック

ひゃく いく まさ や  
百 石 雅 哉

毎年、夏休みと正月休みに家族で楽しみにしていた旅行は、新型コロナウイルス流行により3年間行くことができませんでした。2020年3月には、以前、妻と2人で行ったパラオの海の美しさが忘れられず、3人の子供たちと共にもう一度パラオを訪れたくなり飛行機とホテルを予約していました。しかし、2020年1月に北海道で新型コロナウイルス感染者が確認され、パラオでも感染者が確認されたことから、直前で旅行はキャンセルせざるを得ませんでした。

それから3年が過ぎ、2022年12月29日について念願の正月旅行を再開することにしました。まずは国内旅行からと思い、北海道の寒さから逃れるため南の島へ行くことにしました。沖縄には家族と何度か行っていたため、初めて奄美大島と鹿児島へ行くことに決めました。

12月29日、早朝便のJALで千歳から羽田を経由して午後奄美空港に到着しました。空港でレンタカーを借り、島の最南端にあるホテルTHE SCENEに向かいました。空港とホテルは島の対側に位置し、約2時間の長距離ドライブでしたが、亜熱帯照葉樹林やマングローブの林、南の島の見慣れない家屋や商店、美しい海などを眺めながらのドライブであったため、飽きることなく楽しむことができました。ホテルに到着した頃には周囲はすっかり暗くなっており、ホテル周囲の景色は翌朝のお楽しみになりました。夕食は、ホテル内のレストランで地元の食材を使った絶品のイタリアンのフルコースでした。

翌朝、部屋の大きな窓から見える景色は、白い砂浜とエメラルドブルーの海でした。朝食を済ませた後、車で古仁屋港にある「せとうち海の駅」に向かい、水中観光船に乗りました。半潜水船からは、サンゴ礁とサンゴ礁に集まる色とりどりの熱帯魚を観ることができました。ホテルTHE SCENEの2日目の夕食は、気さくなホテルマンのお兄さんとの会話を楽しみながら、奄美大島の焼酎がすすむ地元食材を使った和食のコース料理でした。

3日目の12月31日は、奄美リゾートばしゃ山村というホテルに移動しました。大晦日と元日であったため、地元の正月料理を堪能することができました。12月31日の夕方と1月1日の早朝には、令和4年の竿納め、令和5年の竿始めとして中学生の息子と2人で宇宿漁港に釣りに行きました。私は、一匹も釣ることができありませんでしたが、息子は1m超えの青やガラを見事に釣り上げ2人とも大興奮でした。また、1月1日の朝には、宇宿漁港の防波堤で初日の出を拝むことができました。

4日目の1月1日は、奄美の自然・歴史・文化を紹介する奄美パーク、島の景勝地であるあやまる岬を観光した後、奄美空港から鹿児島島に移動しました。鹿児島島でもレンタカーを借り、霧島温泉の霧島国際ホテルに宿泊しました。温泉は、にごり湯や露天風呂などさまざまな湯を楽しむことができ、美白美肌効果があるといわれる、女子にうれしい泥パックもありました。

5日目の1月2日は霧島温泉から指宿温泉に向かいました。途中、桜島を望むいおワールドかごしま水族館に立ち寄ってイルカショーを楽しみ、その後、昭和53年に謎の巨大生物であるイッシーで有名になった九州最大の湖である池田湖に偶然立ち寄ることができました。子供の頃、テレビで何度も見たイッシーの映像を思い浮かべながら、イッシーがいるかもしれない神秘の湖を目の当たりにして興奮しました。夕方、指宿温泉のホテル吟松に到着後、歩いて数分の場所にある砂風呂に向かいました。家族全員が、砂風呂初体験でした。砂の重さによるマッサージ効果と適度な砂の温かさで旅の疲れから解放された気分でした。

最終日の1月3日、指宿から鹿児島空港に向かう途中、知覧特攻平和会館に立ち寄りました。知覧は太平洋戦争末期に特攻基地が置かれた町です。最南端の特攻基地として最も多くの特攻が撃ち出されて439名もの若者が特攻隊員として命を落としました。若き特攻隊員が出撃前に書き残した遺書や遺影、遺品などが展示されており、涙なしでは見られませんでした。

新型コロナ流行後、約3年ぶりの家族旅行でした。世界自然遺産の美しい奄美大島の海と自然、雄大な桜島、神秘の湖池田湖、地元の食材を使った美味しい食事、癒される霧島の温泉と指宿の砂風呂、戦争の悲惨さと平和の大切さを考えさせられる特攻基地知覧など、5泊6日の充実した時間を過ごすことができ、旅の良さを改めて実感することができました。

